

ヒューマン・エコロジー研 松田 吾美子

目的 最近 国策として内需拡大政策により、国内の需要が大幅に伸び、カード社会の現出は、ややもすると金銭感覚を麻痺させる危険が、家計の収支のバランスに付いての厳正な管理(自己)が不可欠、犯罪への入口にもなりかねない現状である。戦後の急成長は確固とした経済理念をもたずに来た感の強さ今日に於し、30年以上忠実に経済思想を活用されてきた二宮尊徳に法について解明したいと願い、今回入門程度に明らかにした。

- 方法
1. 尊徳出現の時代的背景の考察
  2. 尊徳経世家としての独自性
  3. 尊徳思想哲学
  4. 報徳教の実践者たち
- まとめ

結果 彼の偉大さは書物による積学ではなく、あく迄も彼の出生、資質がたぐいまれな天賦の性情から発したものと考へらる。即ち、きよき、なほき、あつき、あかひ、純潔、正直、情熱、至誠に加えて、鏡の通観と深遠な宇宙観を確立する思索人であった。その原動力を勤労を通して得た体験は少年時代、青年、壮年、晩年と死に至る迄一貫して思索、実践、理論体系化へと創造した人であった。とくに彼は経済思想とよみすべからず方法により、多くの人と異なり、着家、着村、町落に至る迄多くの業績が今日迄も尊徳にあつた。地域は多い。また多くの内人により、現代近畿に於いては報徳社の活動はその優れた生活者として経世者として、今日異邦殊な時代の指針として再構築の必要を考へた。